

やれる気と思想



日本一の規模である3000人研修プロジェクトのマネジメント経験を引上げ独立。また、企業のイメージキャラクターに『説教ペンギン』というちよびり小憎らしいキャラを採用するなど、ユニークな面も持ち合わせる。今、研修業界に新しい旋風を巻き起している『やれる気請負人』株式会社ノビテクの大林社長を徹底取材！

——イメージキャラクターの『説教ペンギン』。堅いイメージのある研修業界の中ではかなり奇抜なアイデアだと思うのですが？

大林「いやー、最初は周囲には反対もされましたよ。キャラクターにそんなにお金をつぎ込んでどうするんだって。それでも

会社を設立した時からこれは絶対やるうって決めてたんです。日本には現在かなりの数の研修会社があつて、発注する側は何を基準に選んでよいか分からないし、名前すら覚えてもらえないことだってよくあります。ここは強烈なインパクトでアピールしないとダメだと思ってたんです。名前を覚えてもらえないなら印象で勝負しようとか戦略的に考えました。研修どうしようかなくて考えた時にふと『赤いペンギンの会社』を思い出してしまうという構図を作りました。」

やればやるほど喜ばれる仕事をした。だから、コンサルタントの道を目指した。

——もともと研修業界へ転身する前は証券会社で営業をされていたそうですね。しかも、営業で成果を出していたとお聞きしました。なぜ、別の道を選ばれたのですか。大林「証券の営業ってどんなに頑張っても半分はクレームに繋がってしまうんですよ。相場は自分ではコントロールできないから



INTERVIEW
— file 01 —

株式会社ノビテク
代表取締役社長

大林伸安

儲かる人がいれば儲からない人もいるわけで。それで、どうせやるなら『やればやるほど喜ばれる仕事をしたい』って思いはじめてたんです。会社を辞めて何をしようかな、と考えている時にコンサルタントという仕事を思いきました。コンサルタントって会社を良くするというか、まあ正直なんとなかクツコいいイメージがあるじゃないですか（笑）。で、これはやってみたいと思つて新聞の求人広告に出ていた会社を何社か受けたんです。それが25歳くらいの時だったかな。」

——コンサルタントの場合、それなりの経歴が重視されますよね？経験やキャリアがないことで不安はなかったですか？大林「そうなんです。あるコンサルティング会社の集団面接に行った時、周囲を見回

してふと気が付いたんですけど、面接に来ている人が皆すごいんですよ。年齢も私より年上ばかりで、ちよつと履歴書を覗き込むものすごい経歴だったりして。私といえば、資格は普通免許くらいしかなかった。その時はじめて場違いだなって思いました（笑）。面接官に『自分のことを頭が良いと思いますか？』という質問をされて真っ白になりました。で、その時のわたしの答えは『はい、めちゃくちゃ頭いいです！』という言葉だったんです。思わず……というか、もう半分ヤケでしたからね。そしたらその日のうちに『明日会社に来られますか？』という連絡が来て、受かったと思つて大喜び。実際はまだ二次面接だったんですけどね。」

——『めちゃくちゃ頭がいいです！』が効いたのでしょうか？（笑）